

世界銀行グループ 貧困のない世界を目指して

世銀は、発展途上国に対する世界最大の融資機関のひとつです。最も貧しい人々、最も貧しい国々への支援を主眼としており、その資金、スタッフ、幅広い経験を活かして、発展途上国における

貧困削減、経済成長、生活の質向上を支援しています。



THE WORLD BANK



貧困のない世界を 目指して

総裁：ジェームズ・D・ウォルフエンソン

世界銀行グループは、国際復興開発銀行（IBRD）、国際開発協会（IDA）、国際金融公社（IFC）、多数国間投資保証機関（MIGA）、投資紛争解決国際センター（ICSID）の5つの機関によって構成されています。

* このパンフレットでの世銀・世界銀行とは、世界銀行グループ全体を意味します。

本部：ワシントン（世界各国に100以上の現地事務所）

設立：1944年7月1日

米国ニューハンプシャー州ブレトンウッズで開催された、44カ国による会議に基づき発足

加盟国：184カ国

スタッフ：ワシントン本部に約7000人、各国現地事務所に3000人以上



Anvar Ilyasov/世界銀行フォトライブラリー

世界銀行グループ

私たちが暮らす世界は、きわめて豊かであると同時に大変貧しくもあります。発展途上国に暮らす人々の半数以上にあたる約28億人が、1日2ドル未満で生活しています。そのうち12億人は、1日当たり1ドル未満の所得しかありません。世界の人口が増え続け、今後50年間で30億人増になるとみこまれる中、こうした深刻な貧困の削減に取り組むという作業には大きな困難が伴います。

世銀では、以下のようにして世界中で貧困削減に取り組んでいます。

- 経済成長を促進して雇用機会を創出する。
- 貧しい人々がその雇用機会を十分活用できるようにする。

世銀は、加盟国政府が学校や保健・医療センターへの投資、水・電力の

供給、疾病対策、環境保護に取り組むのを支援しています。

世銀は、いわゆる普通に言うところの「銀行」ではありません。先進国・発展途上国双方を含む184の加盟国によって運営されている国際機関です。

世銀は1944年、国際復興開発銀行として設立されました。1946年に活動を開始したときの加盟国は38カ国でした。その後1950年代、60年代に多くの国が独立して世銀に加盟したた

め、加盟国の数は急速に拡大しました。加盟国の増加やニーズの変化を受けて、世銀自体も拡大し、現在では5つの異なる機関で構成される世界銀行グループとして活動しています。

世銀は協同組合のような組織で、出資者は各加盟国です。加盟国は、世銀理事会に送りこんだ自国の代表を通じて、世銀の政策を決定し、その運営状況を監督すると共に世銀の活動から恩恵を受けています。🌐


世銀とIMF

世銀はよく、同じく1944年のブレトンウッズ会議で設立された国際通貨基金(IMF)と混同されます。IMFは、世銀の機能を補完する面はあるものの、世銀とはまったく別の組織です。世銀が発展途上国に援助を行うのに対し、IMFは国際金融システムの安定を図り、世界の通貨を監督する役目を担っています。

開発のための ロードマップ

世界でも大半の国が、2000年の国連ミレニアム・サミットで採択した「ミレニアム宣言」に基づいて、2015年までに貧困を半減させるべく協力しています。「ミレニアム宣言」には、以下の8つの目標が掲げられています。世銀はこの目標を開発のためのロードマップとして、これに基づき優先項目を決定しています。世銀は、加盟国がこれらの目標を達成できるよう支援を続けていきます。

ミレニアム開発目標

- 目標1： 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2： 初等教育の完全普及
- 目標3： ジェンダーの平等と女性のエンパワーメント
- 目標4： 子供の死亡率の削減
- 目標5： 妊産婦の健康の改善
- 目標6： HIV/エイズ、マラリアなどの疾病の蔓延防止
- 目標7： 持続可能な環境作り
- 目標8： グローバルな開発パートナーシップの構築 



世銀の活動

世銀は、発展途上国に対する世界最大の資金と知識の供給機関のひとつです。最も貧しい人々、最も貧しい国々への支援を主眼としており、その資金、スタッフ、幅広い経験を活かして、発展途上国における貧困削減、経済成長、生活の質向上を支援しています。

世銀が発展途上国で支援するプロジェクトの効果を評価することは、きわめて重要です。資源は不足しているため、最も大きな効果のあがり得るプロジェクトに投入しなければなりません。プロジェクト責任者はモニタリングによって、プロジェクトが本来対象とする人々のためにきちんと成果をあげているか、あるいは無駄で不経済なものでないかをみきわめることができます。世銀では、貧しい人々のための活動の実際の結果を重視し、何がうまく行き何がうまく行かないかを継続して探ることにより今後の助言と支援に生かすようにしています。モニタリングと評価を重視するのはその一環としてです。

60年間の経験から、開発戦略は途上国自身が独自の情況に合わせて策定しなければならないことがわかっています。すべての国に画一的な開発戦略を当てはめようとしてもうまくはいかないのです。世銀は、その資金と知識を駆使して、経済的・社会的発展を促し、途上国が国際的に合意された「ミレニアム開発目標」を達成できるように支援しています。

世銀は、100以上の発展途上国と協力して、さまざまな分野で活動しています。世銀の支援するプロジェクトは、これらの国々における保健・医療や教育への投資、汚職防止、農業生産性向上、道路・港湾の建設、環境保護を援助するものです。さらに、戦争被災国や被災地域の復興、清潔な水などの基本的サービスの提供、雇用創出のための投資を促進するプログラムも支援しています。2003年度（2002年7月1日から2003年6月30日まで）に世銀理事会は、240件のプロジェクトに対して185億ドルの融資とグラント供与を承認しました。🌐



Shehzad Noorani/世界銀行フォトライブラリー

現場での成果

世銀を理解するための最良の方法は、実際のプロジェクト例について知ることです。世銀が支援したプロジェクトによって、次のような成果があがっています。

- インドで貧しい子どもたちの教育機会が拡大
- 中国における結核感染者数の減少
- ブラジルにおけるHIV/エイズへの取り組み
- ベルーの遠隔地帯での道路建設
- トルコの農村居住者の所得倍増

- ウガンダ政府の教育支出に関する調査
- モザンビークでの経済成長促進
- キルギス共和国での女性起業家支援
- 債務救済

教育

もしも人口10億人以上を擁するインドに生まれていたらと考えてみてください。そこでは、男女を問わずすべての子どもたちに、ほんの数年間教育を

受けさせることもきわめて困難です。しかしインド政府は現在、国際社会から支援を受けてこの難題に取り組んでいます。インドがこの目標を達成できるようにと1990年代初頭に始められた「地域初等教育プログラム」は、今や世界最大の教育プログラムとなって6000万人の子どもを対象に進められています。

世界銀行は、このプログラムに対し単一の出資者としては最大の12億ドル



具体的には、中国政府が安価で高品質な医薬品を購入し、スタッフを教育し、結核患者の診断と治療を行えるようになりました。無償で治療にあたった医療関係者にとっても、このプロジェクトに関わったことは大きな刺激となりました。結核は伝染性がきわめて高いため、世界保健機関ではその抑制のために、結核患者を発見、治療するだけでなく、必ず半年間は無料で治療することを各国に推奨しています。このプログラムの直接的な成果として、2000年末までに120万人近くの結核患者が診察と治療を受けました。中国が達成した95%というめざましい成功率は、国をあげての大規模な結核抑制運動として他のどの国をもしのぐものです。

の融資を行っています。他にも、国連児童基金（ユニセフ）、欧州委員会、スウェーデン政府、オランダ政府など、多くのドナーが支援するこのプログラムは、インドの18州271地域に住む6歳から14歳の子どもたちに、最低4～5年間の質の高い初等教育を提供することを目指しています。その結果、全般的な就学率が向上し、男女別の構成比をみると女兒の割合が3年間に38%から43%へと上昇しました。インド政府はこのプログラムを手本として、インド全土に初等教育を完全普及させようとしています。

保健・医療

今日、結核（TB）はHIV/エイズにほぼ匹敵するほどの大きな脅威であり、この疾病から一番深刻な打撃を受けているのは最貧層の人々です。中国では毎年130万人以上が新たに結核に感染しており、これは世界の結核患者の16%に相当します。1992年、中国政府は結核抑制のため、世銀から5000万ドル以上の融資を受けました。世銀とのパートナーシップの下、世界保健機関、イギリス政府、中国政府は、中国の総人口の約半数が居住する13の州で治療に着手しました。

HIV/エイズ

1990年代初め、ブラジルは世界で4番目にエイズ感染例報告の多い国でした。しかし現在では、エイズの蔓延防止と患者支援に関して最も優れた国のひとつとみなされています。ブラジルは、1993年に世銀から1億6000万ドルの融資を受けました。これを基に、約175のNGOが400以上の運動を展開して50万人に働きかけ、HIV/エイズや薬物乱用の予防に関して何千人もの教師や生徒にトレーニングを行いました。1998年と2003年には、HIV/エイズの蔓延抑制を進めるブラジル

をさらに支援するため、2億6500万ドルの追加融資が行われました。ブラジルのプログラムで特徴的なのは、1996年以降HIV感染者に対し、公的医療システムを通じて無料で治療薬を提供してきた点です。1993年と比べると、ブラジルのHIV/エイズ関連の死者数は38%減少しました。

道路建設

ペルー中部のアンデス山中高くにあり小さな村コルカでは、クスコにある市場まで行くのに片道4～5時間かかっていました。村人が市場や学校、病院に通いやすいよう、ペルー政府は、世界銀行、シビルソサイエティ組織（政府にも民間セクターにも属さない組織）、米州開発銀行と協力して

「ペルー農村地域道路建設プログラム」を発足させました。新しいバスサービスと道路改修のおかげで、今では同じ行程にわずか1時間しかかかりません。

今日、コルカの村民が町に出かけるのは、食料、医薬品、衣類を買ったり、自分が作ったものを市場で売ったり

Tran Thai Hoa/世界銀行フォトライブラリー



するためだけではありません。観光産業でにぎわうクスコのホテルやレストランでパートタイムで働くようになっています。また、恩恵を被ったのはコルカの住民だけではありません。延べ1万3000キロ近くにわたる農村道や高速道路の建設は、アンデス地域に住む約300万人の人々に利益をもたらしています。

環境

トルコでは、国土の70%以上に土壌劣化が起こっており、その結果、農民の所得に影響が及んでいます。世銀が支援した「東アナトリア流域復旧プロジェクト」では、300以上の山村に暮らすトルコ農民の生活が改善されました。具体的には、農民に新たな換金作物（食糧ではなく出荷のみを目的

とした作物）を栽培させ、新たな農作技術を教えることによって生産性を飛躍的に向上させました。

このプロジェクトの目的は、森林地帯の生産性を向上させ、繰り返される耕作や旱魃の影響でやせてしまった農地を利用できるようにし、より多くの村民が自らの資源を計画・管理で



世銀の支援したプロジェクトの成果：

- メキシコ・シティの大気汚染が改善し、オゾン層破壊による健康被害の懸念される日数が1991年の174日から、1999年には30日に減少。
- マダガスカルでは、妊婦と学童の甲状腺腫（甲状腺肥大）が、1992年の45%から1998年には15%に減少。
- 年金計算をコンピューター化するため、ロシア連邦77地域の2266のオフィスに1万4000台のパソコンを設置し、新規申請分の手続きの遅れを30日から2日に短縮。
- チュニジアに158の保健・医療センターを建設し、57の地域病院をグレードアップ。
- インドネシアの貧困集落のために、延べ1万5069キロの道路と42.5キロ分の橋を建設。
- インドで、1500万件以上の白内障手術に資金援助。



きるようにすることです。プロジェクトが始まって、この地域の農村収入は倍増しました。人工衛星の画像からも植生の変化がはっきりと確認でき、洪水を減らし土壌への堆積を防ぐのに役立つものと期待されています。

ガバナンス

ウガンダでは、調査の結果、1991年から1995年の間に学校用資金のうち実際に学校のために使われた金額が平均30%未満であると判明しました。そこでウガンダ政府は、支払手続きを見直すと同時に、学校に支払いを行う際により多くの関係者（特に父兄と教師）にその旨を告知するようにしました。その結果、同じ調査によると、2000年には学校用予算の90%以上が実際に計画通り使われるようになりました。この例は、制度が脆弱な場合、情報が変化をもたらすための強力な手段となり得ることを示すものです。

経済成長

長年内戦に苦しんできたモザンビークは、1990年代には世界で最も貧しく、最も大きな負債に苦しむ国のひとつでした。国民の生活を向上させるため、政府は雇用を創出して、経済再建に役立つような投資を誘致したいと考えました。そのひとつが、1996年から2003年の間に行われた、大規模な最新式アルミニウム工場モザルに対

Dominic Sansoni/世界銀行フォトライブラリー

する22億ドルの投資でした。これには、南アフリカ産業開発公社をはじめとする多数の投資家や融資機関が関わり、世界銀行グループのひとつで途上国への外国投資を促進する多数国間投資保証機関が4000万ドルの保証を行いました。

モザンビークは、経済を活性化させ経済成長を促進するようなプロジェクトに対する外国からの投資誘致に成功しており、2001年には推定14%の

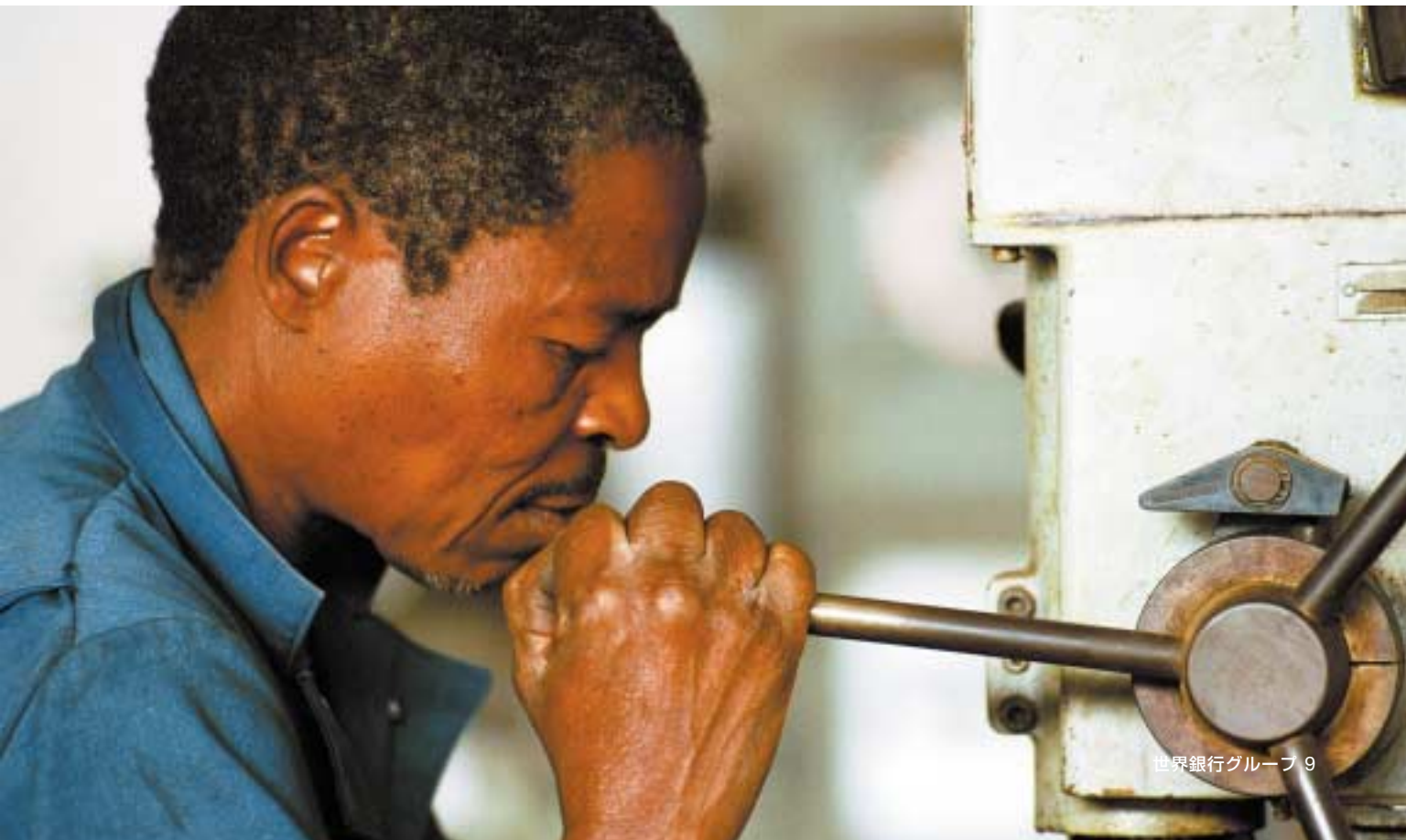
経済成長を達成しました。モザル・プロジェクトは、モザンビークがまだ投資誘致に苦戦していた時期における、初の大規模な外国投資プロジェクトでした。過去4年間にモザンビークの輸出は着実に伸び、2002年には10億ドルに達しました。

金融サービス

キルギス共和国のソニャ・ザナザロヴァ(愛称ソーニャ)は、地元の市場でピスタチオを売って収入の足しにしよ

うとしていました。会場の中に店を構えるお金がなかったのも、ソーニャは建物の外に小さなテーブルを置いて、凍りつくような冬の間もそこでピスタチオを売りました。やがて彼女は11人の女性と組んで村に金融グループを立ち上げました。事業拡大のための資金を求めて、ソーニャは国際コミュニティ支援基金(FINCA)を訪ねました。FINCAは貧しい起業家に少額の融資を行っており、世銀の民間セクター支援機関である国際金融公社の援助を

Eric Miller/世界銀行フォトライブラリー





Bunyad Dinc/世界銀行フォトライブラリー

受けています。FINCAから40ドルの融資を受けたソーニャは、ピスタチオの仕入れ量を増やすことができるようになり、事業拡大に乗り出しました。

FINCAはごく小規模な事業にも融資を行うので、低所得の起業家でも事業拡大と生活改善のために公正な金利で確実な融資を受けることができます。今日、キルギス共和国内でFINCAから融資を受けている事業者の90%は、ソーニャのような女性で、平均借入額は120ドルです。事業を拡大したソーニャはやがて新しい製品も扱うようになり、市場に小さなテーブルを借りる

こともできるようになりました。現在は事業も軌道に乗り、新しくスタッフを雇うにいたっています。

債務救済

貧しい国々では、主に先進国政府からの多額の債務のために、教育や保健・医療をはじめとする重要なサービスに資金を提供するのが難しくなっています。そのため、世界銀行と国際通貨基金は1996年「重債務貧困国イニシアティブ」という債務救済プログラムを導入しました。このイニシアティブは、国際社会の協力によって深刻な貧困にあえぐ国々の債務を削減しようというものです。対

象となるのは、多額の債務を負い、自国の経済改善に取り組んでいる低所得国です。

現在、27カ国が推定520億ドル相当の債務救済を受けています。これらの国では、債務コスト軽減により毎年平均10億ドルの節減が可能になっています。独立調査によると、これらのうち10カ国では現在、教育予算が債務残高の2倍を越えています。また、医療予算も70%上昇しています。🌐

世界銀行グループを運営しているのは？

世界銀行は協同組合のように運営されており、出資者は加盟国です。各国の分担金額は、おおむねその国の経済力に応じて決められています。単一出資者として分担金額が最も多いのはアメリカ（議決権の16.41％を保有）で、これに日本（7.87％）、ドイツ（4.49％）、イギリス（4.31％）、フランス（4.31％）が続きます。残りは、それ以外の加盟国が分担しています。

最終意思決定の権限

世銀の各出資国は、総務会に財務省や開発省の大臣など代表を1名ずつ送りこんでいます。世銀の意思決定は、年に1度年次総会の際に開催される総務会でその最終責任において行われます。

日常的な意思決定

総務会の開催は年1回のため、通常の任務については、通年世銀内で任務に当たる理事会に権限が委譲されています。加盟国政府が送りこむ理事の数は1カ国につき1名です。5大出資国（アメリカ、イギリス、ドイツ、日本、フランス）がそれぞれ1人ずつ理事を任命し、その他の加盟国から19人の理事が選ばれます。

これら24人の理事が通常週2回理事会を開催し、融資・保証の承認、新たな政策、行政予算、国別支援戦略、融資や財務上の決定といった世銀の業務を監督します。

世銀総裁は伝統的に、最大出資国であるアメリカから選出されます。総裁の任期は5年（更新可）で、理事会の議長を務め、世銀の運営全般に責任を負っています。現在の総裁はジェームズ・D・ウォルフエンソンで、1995年に就任しました。

世銀では、エコノミスト、教育者、環境専門家、金融アナリスト、人類学者、エンジニアなど、約1万人が働いています。その出身国は約160カ国におよび、世界各国の現地事務所で働くスタッフは3000人を超えます。現在世銀では、クライアント側担当者とより緊密に協力できるよう、各国現地事務所での人員拡充が進められています。🌐

世銀を構成する5つの機関



世界銀行グループ

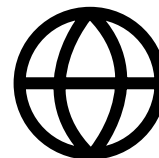
国際復興開発銀行

国際開発協会

国際金融公社

多数国間
投資保証機関

投資紛争解決
国際センター



国際復興開発銀行

国際復興開発銀行 (IBRD) は、ラテンアメリカ、アジア、アフリカ、東ヨーロッパの中所得国に対する融資と開発援助を行っています。主な原資は、国際資本市場での世銀債発行によるものです。

国際開発協会

国際開発協会 (IDA) は、貧困削減という世銀の重要な使命を実行する上で重要な役割を果たしています。最貧国を対象とした援助を行い、無利子融資・グラント供与を行っています。主な原資は、一部の発展途上国を含む、比較的豊かな加盟国からの拠出金です。

国際金融公社

国際金融公社 (IFC) は、民間セクターの投資に資金を提供し、政府や企業に技術支援や助言を行うことによって、発展途上国の成長を促します。民間投資家とのパートナーシップを通じて、途上国での事業に融資とエクイティ・ファイナンスを行います。

多数国間投資保証機関

多数国間投資保証機関(MIGA)は、外国投資家に対して非商業的リスクによる損失への保証を行うことにより、発展途上国への海外直接投資を促進します。また、途上国の投資機会を拡大するため技術支援を提供したり、法的サービスによって投資への潜在的障害

を削減したりもしています。

投資紛争解決国際センター

投資紛争解決国際センター(ICSID)は、外国投資家と投資先国家の投資紛争に解決の場を提供します。🌐

Julio Etchart/世界銀行フォトライブラリー



5つの機関の概略

国際復興開発銀行

設立：1945年
加盟国：184カ国
2003年度の融資額：37カ国の99の
新規業務に対し、112億ドル
ウェブサイト：
<http://www.worldbank.org> (英語)
<http://www.worldbank.or.jp> (日本語)

国際開発協会

設立：1960年
加盟国：164カ国
2003年度の融資額：55カ国の141
の新規業務に対し、73億ドル
ウェブサイト：
<http://www.worldbank.org/ida>

国際金融公社

設立：1956年
加盟国：176カ国
2003年度の融資額：64カ国の204
のプロジェクトに対し、36億ドル
ウェブサイト：
<http://www.ifc.org> (英語)
<http://www.ifc.org/tokyo> (日本語)

多数国間投資保証機関

設立：1988年
加盟国：164カ国
2003年度の保証額：14億ドル
ウェブサイト：<http://www.miga.org>

投資紛争解決国際センター

設立：1966年
加盟国：139カ国
2003年度の登録案件：26件
ウェブサイト：
<http://www.worldbank.org/icsid>

世銀の業務

世銀の5つの機関は、互いに補い合いながら、それぞれ異なる役割を果たしています。

融資機関として

長年の間に、世銀は途上国のニーズに合わせたさまざまな融資方法を開発してきました。世銀の主な融資機関は、IBRDとIDAです。IBRDは、中所得国が改革や公共サービスを推進するのに必要となる資金について安価な調達手段を提供しています。商業銀行から借り入れる場合よりも返済期間が長く(15~20年)、3~5年の据置期間が設けられています。途上国政府は、貧困削減への取り組み、社会サービスの提供、環境保護、生活水準の向上につながる経済成長促進といった、特定のプログラムのための資金を借り入れます。IDAは、グラント供与や「クレジット(融資)」(無利子、据置期間10年、返済期間35~40年)を通じて、世界の最貧国の貧困削減を支援しています。これらは、IBRDや商業銀行から融資を受けることができない国々です。現在、81カ国がIDAの融資適格国となっています。これらの国に暮らす人々は合わせて25億人にのぼり、発展途上国の全人口の半数に当たります。

仲介機関として

それ以外の開発資金源としては、二国間協定(二国間の借入れ協定)による富裕国からの融資・グラント、多国間協定(3カ国以上の国家間の協定)による国際機関あるいは複数の国からの融資・グラント、ならびに輸出信用機関や民間企業からの融資・グラントなどがあります。

切実な財政危機に直面している国々を支援するため、主要な開発援助国によって、いくつかの信託基金が設立され、世銀がこれを管理しています。これらの信託基金は、重要な投資業務、債務救済、技術支援、天災や戦争後の緊急復興を支援するために用いられます。

最後に、多数国間投資保証機関は、民間セクターや金融機関が通常想定していない、あるいは受け入れる用意のない非商業的リスクを保証することによって、途上国への民間投資を促します。また国際金融公社は、民間投資を促進するべく、途上国の民間セクターと協力しています。

Trevor Samson/世界銀行フォトライブラリー





ドナーとして

世界銀行グループは基本的には融資機関ですが、いくつかのグラント・ファシリティの監督も行っています。たとえば開発グラント・ファシリティは、開発問題を解決する革新的な手法や技術を検証するパイロット・プロジェクトに資金を提供するものです。また世銀はグラント供与によって、農村開発、保健・医療、教育、経済政策、環境保護、民間セクター開発といった分野のプロジェクトを支援しています。

助言機能

世界銀行は、長年の開発経験、分析、研究に基づいた助言を行っています。世銀は、開発経済、貧困研究、貿易、グローバル化、環境といった分野における世界最大の研究拠点のひとつです。加えて、個々のプロジェクトには調査フェーズが設けられていて、世銀スタッフとパートナーが、その国の経済的・社会的健全性にとって重要な多くの要因を検証します。これらの要因とは、経済・貿易の見通しから貧困レベルやセーフティ・ネット機能にいたるまで多岐にわたります。また世銀には、保健・医療、教育、栄養、金融サービス、司法、法律、環境の分野で助言を行う専門部署も設けられています。

情報資源

途上国の自助努力を支援するという世銀の目標を受けて、世界銀行研究所（世銀の研修機関）では、教育・情報提供プログラムを実施し、加盟国の開発スキル向上を促しています。その際、現地の研究・学術機関と協力することもよくあります。世界銀行研究所は、国際開発に関する知識を共有するためデータベースやネットワークの構築や維持も行っています。

パートナー

開発に際して世界銀行の主なパートナーとなるのは加盟国の政府です。ただし、途上国の関係者や地域社会を関与させるため、それぞれの分野にて経験豊かなあるいはよりふさわしい組織とも協力しています。世銀は、さまざまな国際開発金融機関、国連機関、二国間ドナー、シビルソサイエティ組織とのパートナーシップを構築、維持、強化してきました。学術機関や民間セクターとの関係も深めています。🌐

世銀はどこで資金を調達するのか

世銀債 ドナー資金 信託基金 投資家 IDA融資返済額

世銀グループの主要融資機関であるIBRDは、資金の大半を、格付けAAAの世銀債を発行することによって世界の金融市場から調達しています。通常、世銀債の引受け先は、金融機関や年金基金をはじめとする資産運用機関、それに各国の中央銀行です。2003年度、IBRDは金融市場で170億ドルを調達しました。ただし他の金融機関と違い、利益の追求は世銀の目的ではありません。高い格付けを受けていることで可能となる低金利を、そのまま発展途上国への融資に適用しているのです。

世界銀行の収入源には、融資による利子および手数料収入、流動資産の投資収益、加盟国からの出資金があります。これらの収入と資本市場で調達した資金、および払込出資金と留保利益の一部を用いて、加盟国への融資を行い、運営経費をまかなっています。

IDAでは、最貧国に無利子の融資とグラントを提供しており、その金額は世銀の総融資額の約4分の1を占めます。IDAは貧困国への無利子援助の世界最大の提供源で、約40のドナー国による3年毎の増資によって、プログラムの続行が可能となっています。またIDAは、ドナー国や他の国際機関からの支援の動員・調整も行っています。

最近では2002年に増資が行われており、2002年7月1日からの3年間に約230億ドルが貧困国に提供されることになっています。この資金のおよそ半分はドナー国からの出資によるもので、残りは非ドナー資金（IDA融資の返済額とIBRDの純益移転分を含む）によってまかなわれます。2002年の増資に当たってドナー各国は、無利子融資とは異なり返済を求めないグラントの割合を増やす（最大5分の1まで）ことを決定しました。グラント供与を受けた途上国は、HIV/エイズの蔓延



といった開発上の危機に対処しやすくなります。

IDAを除くと、加盟国の出資金が世銀収入に占める割合はごく一部で、IBRDの資金のうち5%（約130億ドル）が富裕国の払い込んだ世銀加盟時の出資金です。

MIGAは、加盟国から出資を受けるとともに、世銀から運営資金の提供を受けています。MIGAはまた、そのサービスの一部から報酬を得ています。

IFCは、個々のプロジェクトに対しさまざまな資金調達手段（融資、エクイティ・ファイナンス、リスク管理商品、金融仲介など）を提供します。しかし、プロジェクト資金の大半は民間セクターが負担し、プロジェクトの主導権や運営責任も民間セクターにあります。IFCは商業ベースで運営されており、営利目的のプロジェクトにのみ投資し、商品・サービスの提供に際しては市場価格を適用します。🌐

世銀の資金はどう使われているのか？

IBRD融資 IDAクレジット 信託基金によるグラント プロジェクトファイナンス 保証 投資

世銀の一番の役割は、その資金を用いて発展途上国に利益をもたらすことです。世銀は国際金融市場を利用できない途上国に対し、低金利、無利子、あるいはグラントといった形で資金提供しています。

加盟国はまた、開発プロジェクトを計

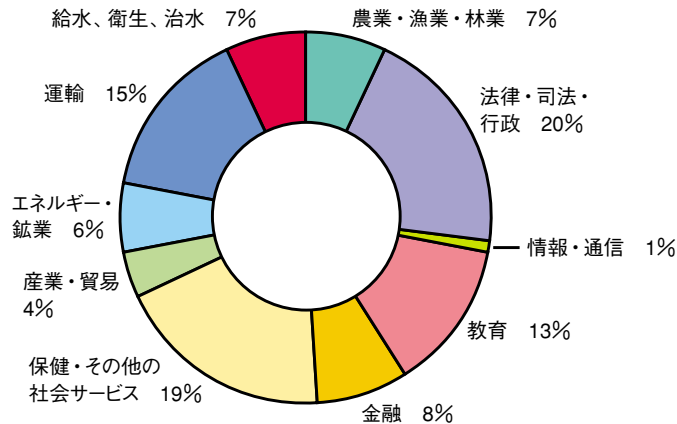
画・実行するに当たって、世銀に経済調査、政策助言、技術支援を依頼してきます。加盟国自身が、世銀スタッフの技術支援を受けて自らプログラムを作成します。ただしそのプログラムは、貧困削減や社会サービスの提供など、具体的な開発目標を備えたものでなければなりません。

途上国が利用できる資金調達手段は、ニーズの高さによって決まります。IBRDの融資を受けているのは、一般に国民一人当たり所得が年間5185ドル未満の中所得国です。世界で最も貧しい人々(1日1ドル未満で生活している人々)の75%がこれらの国に住んでいます。こうした国々が民間市場

Anvar Ilyasov/世界銀行フォトライブラリー



IBRDとIDAのセクター別融資合計額2003年度



合計185億ドルに占める割合

から資金を調達しようとしても、負担しきれない高い金利を課されてしまいますが、IBRDはそれより低金利で返済期間が長い融資を提供します。

国民一人当たり所得が875ドル以下の最貧国は、基本的サービス提供のためのプロジェクトに対し、世銀からグラントや無利子の融資を受けます。融資の場合、返済期間は35～40年、据置期間は10年です。世銀が業務から得た収益は内部に留保されます。この留保利益は、世銀にとって財政面で大きな保障になると共に、IDAや

債務救済といった主な援助の原資ともなっています。

IFCとMIGAの設立を通じて、世銀は発展途上国に公平な競争の場を与え、投資家にとってより魅力的な環境を整えようとしてきました。IFCは途上国の民間セクターと協力して活動する機関で、民間企業の少数株式所有者となって民間投資家を誘致します。MIGAは投資家や融資機関に対して、戦争や内乱など非商業的リスクなど、途上国における財政的・政治的リスクに対する保証を提供します。🌐

融資の仕組み

世銀には基本的に2種類の融資手法があります。幅広い部門の経済的・社会的開発プロジェクトを支援するため物品や業務、サービスの資金をまかなう投資融資と、政策改革や制度改革のための調整融資です。

世銀と借入国は、融資交渉を行う中で、プロジェクトやプログラムの開発目的、成果、パフォーマンス測定指標（プロジェクトの影響や成否を測る）、実施計画について合意します。世銀が融資を承認し、それが発効すると、借入国は世銀との間で合意した借入条件に従って、プロジェクトあるいはプログラムを実施します。

世銀は、各融資金の利用状況を監督し、その結果を評価します。すべての融資は世銀の業務方針に従って実施されます。この業務方針は、世銀が支援する業務が経済的・財政的・社会的・環境的に健全なものとなるよう策定されたものです。

各種連絡先

詳しい情報を入手するには？

世銀のウェブサイト (<http://www.worldbank.org>) には、世銀に関する情報が満載されています。また、発展途上国における世銀のプロジェクトに関するデータベースのページ (<http://www.worldbank.org/projects>) には、融資や技術支援に関する情報が掲載されています。

採用や奨学金受給のチャンスはありますか？

採用については、世銀の採用に関するサイト <http://www.worldbank.org/careers> をご覧ください。

奨学金については、以下の2つのプログラムの窓口にご相談ください。

日本/世界銀行共同大学院奨学金制度 (Joint Japan and World Bank Graduate Scholarship Program : <http://www.worldbank.org/wbi/scholarships>)

ロバート・S・マクナマラ・フェローシップ・プログラム (Robert S McNamara Fellowships Program : <http://www.worldbank.org/wbi/scholarships>)

グラントに申し込むには？

世銀では、以下のとおり、さまざまな形でグラントや融資を提供しています。

InfoDev (<http://www.infodev.org>)
国際開発機関、各国政府、民間組織と連携して、社会的・経済的發展や貧困削減に向けた情報通信技術 (ICT) の普及および利用促進のための資金を提供する。

紛争後基金

(<http://www.worldbank.org/conflict>)
政府やパートナー機関に資金提供することで、復興活動の計画立案、試行、分析を支援する。この基金には、非政府組織 (NGO) などのシビルソサエティ組織、現在紛争中または紛争直後で復興中の国の政府、そこで活動する地域的・国際的組織が申請できる。

先住民族基金

(<http://www.worldbank.org/indigenous>)
持続可能な開発、先住民族の権利、制度強化や研修、文化やアイデンティティのためのリソースを扱うプロジェクトを支援する。

社会基金

(<http://www.worldbank.org/socialfunds>)
発展途上国の貧困層や弱い立場の人々を助けるために共同体が運営する小規模なプロジェクトに資金提供を行う。

モントリオール議定書

(<http://www.worldbank.org/montrealprotocol>)
オゾン層を破壊する化学物質の製造・使用をやめさせるためのコストが拡大するのを受け、発展途上国の負担を支援する。

技術支援信託基金

(<http://www.ifc.org/about/contacts/support/ta/ta.html>)
IFCはこの基金を通じて、起業家支援からプロジェクト計画立案、民間セクターの制度構築にいたるまで、広範な技術支援活動を行う。

危機的状況にある生態系をめぐるパートナーシップ基金

(<http://www.cepf.net/xp/cepf>)
戦略的關係を構築して、包括的で相互矛盾のないアプローチにより、保護区の管理、生物回廊の調整、トレーニング、複数国間での計画立案など環境保護の課題に取り組む。

この基金には、生物多様性保護に取り組むシビルソサエティ組織、NGO、コミュニティ・グループ、民間セクターのパートナーが申請できる。

投資家が投資対象となる優良な企業やプロジェクトを選択するのを手伝ってもらえますか？

世銀のウェブサイト上に、投資機会について調べることのできるさまざまなリソースが掲載されています。

IPAnet (<http://www.ipanet.net>)
MIGAが運営し、投資環境やビジネスチャンスについての情報や分析を提供している。

FDI Xchange

(<http://www.fdixchange.com>)
無料の電子メール・サービスで、世界中の新興成長市場国における新しい投資機会の概要やビジネス環境の分析について情報提供する。

民営化リンク

(<http://www.privatizationlink.com>)
売却先を募集中の新興成長市場国の国営企業についてその概要を伝えるサービス。

ディベロップメント・ゲートウェイ外国直接投資トピックページ

(<http://www.developmentgateway.org/fdi>)
MIGAが世銀の外国投資助言サービスや国連貿易開発会議と共に運営するウェブサイトで、外国直接投資、国際ビジネス、多国籍企業についての最新情報を提供している。

民間エクイティ・投資ファンド

(<http://www.ifc.org/ifcext/cfn.nsf/Content/Overview>)
IFCは、さまざまセクターを対象とした民間のエクイティ・ファンドの開発、ストラクチャー決定、実行を支援している。こうしたファンドは、一定の条件を満たした民間企業へのエクイティ・ファイナンスやそれに準ずる資金調達手段を提供する。

即時対応部門 (<http://rru.worldbank.org>)
発展途上国の政策、現在の投資状況、民営化について助言を行う。

わが国はこれまでに開発活動に関する契約をどれだけ落札していますか？入札するにはどうすればいいのですか？

過去の国別調達契約については、契約検索のページ (<http://www.worldbank.org/projects>) をご覧ください。

開発プログラムやプロジェクトについての詳細は、ディベロップメント・ゲートウェイのAiDaのページ (<http://aida.developmentgateway.org/AidaHome.do>) をご覧ください。

以下のウェブサイトには、世銀が資金提供しているプロジェクトで発生する契約への入札や問い合わせに関する情報が掲載されています。

ディベロップメント・ゲートウェイ

<http://www.dgmarket.com>

国連開発ビジネス

<http://www.devbusiness.com>

子供たちや若者が世銀のリソースについて詳しく知るには？

子供たちや若者向けに youthink! (<http://youthink.worldbank.org>) というページが用意されており、若者たちに関連の深い世界の出来事についての情報が掲載されています。またこのサイトには、教師や学生のためのコーナーや、世界中の若者が開発関連の考えや懸念を交換し合えるフォーラムの他、ゲームやクイズ、ビデオのコーナーもあります。

学校や企業で世銀を見学に行きたいのですが？

ワシントンでは、世銀の講演局 (<http://www.worldbank.org/speakersbureau>) が年間を通して特定の日を設けてグループでの見学に対応しています。ワシントン以外については、世銀の現地事務所にお問い合わせください。

世銀とシビルソサエティとの協力関係について知りたいのですが？

世界各地における世銀とシビルソサエティとの関係についての情報、リンク、資料はウェブサイト (<http://www.worldbank.org/civilsociety>) でご覧いただけます。

国会議員との協力関係について知りたいのですが？

ヨーロッパ地域担当副総裁の下、世銀は、世界中の国会議員とより緊密に協力していくため、世界銀行国会議員ネットワーク (<http://www.pnowb.org>) の発足を支援しました。

世銀の刊行物や資料について情報を得たいのですが？

世銀は世界各地に情報公開センターを設置しており、一般の方が世銀についての情報や資料を閲覧できるようになっています。世銀は情報開示政策 (<http://www.worldbank.org/disclosure>) に基づいてこうした情報/資料を開示しています。

世銀の出版物はインターネット (<http://www.worldbank.org/publications>) でご注文いただけます。また、世銀情報センター (PIC東京：連絡先は裏表紙を参照) でもご覧いただけます。

世界銀行 (ワシントン本部)
1818 H Street, NW
Washington, DC 20433 USA



世界銀行グループ

世界銀行東京事務所
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2
富国生命ビル10階
電話：03-3597-6650 (代)
ファックス：03-3597-6695
ホームページ：www.worldbank.or.jp
Eメール：ptokyo@worldbank.org